

# 12月議会 新医療センター建設計画の見直しはどうなっているか？

加した住民からは不満で、疑問が残る、説明を聞いているうちに、「新しい施設がなぜ必要なのか」わからなくなったり、建設費とされる「100億円」だけが独り歩きしている印象が残つたのではないかと指摘しました。

そのうえで、民間の診療所・病院でできないこと、市立医療機関でやつてほしいと思つて いる医療は何なのか、明確にされるべきで、関係す

倉成淳市長は、市民からは総じて厳しい意見をいただいているとして、まずは新医療センターがなぜ必要なのか、そこがあることでどのような未来が期待できるか、しっかりと市民に伝えることが重要だと考えるとして、基礎資料を整理したうえで、医療関係者からもさらに意見をいただき実効性のある計画となるよう

修正をしたい。  
並行して、主要な論点を整理し、公開の場でシンポジウムなどを開催し、修正案がまとまつた際に改めて市民説明の機会を設けたい。そして、なるべく早期に計画策定につなげられるよう努力したいと述べるにとどまり、具体的回答は示されませんでした。

「実効性のある  
計画にしたい」



# 1月臨時議会(1月20日) 令和6年度分物価高騰対策支援を決定

の家計支援給付金（3千万円余）、各施設の電気料等支援、地域公共交通事業者、運転代行業者等への支援策などが提案され、全会一致（全議員賛成）で可決決定されました。

千葉敦議員は、市内中小事業者への支援策で、「10月から最低賃金が上がり、岩手県の支援が決まっている。市としても上乗せ支援が必要でないか」また「社会保険料があがるから、国へ支援策を求める働きかけが必

野裕文議員の質問についてお知らせします。



今野裕文議員

市議団は、全員が一般質問に立ちました。先々週号に引き続  
く市議会の令和6年第4回定例会（12月議会）で、日本共産党  
の医師の姿がみえないこと、  
責任者はだれなのか明らかで  
ないのは問題だとして、以下  
2点について質しました。

今野裕文議員は、最初の2年は短期入所（ショートステイ）からの転換が主で、計画の3年目に多くの整備が計画されているが、計画の実現性について、また、短期入所の需要にこたえられる状況なのか質しました。

ム 231人分のうちショートステイからの転換が26人分、うち16人は整備済みで、残る10人分は今転換の予定。改築を含めた整備とて、残り205人分のうち、新規設60人の2施設は来年度の施設備のため県の補助金申請を受理た。第9期中に少なくとも146分の増床を見込んでいる。

シヨーツステイについて、特別

者に配慮した転換を行つてゐる。  
施設が整備されるとともに、従事する職員の確保が非常に重要であり、来年5月（令和7年）に、奥州市福祉人材確保基本構想を作成し、人材確保のための実態調査を行い事業者と情報交換を行い、定員をほぼ満床で稼働するのは第10期からと見込んでいることを明らかにしまし

奥州市高齢者福祉第9期介護保険計画において、特別養護老人ホームの231床の整備が盛り込まれ、その整備状況について質しました。

今何がどうなって

少なくとも146床の整備を見込んでいた

護老人ホームへの転換ベッド数が減ってしまうので、特別養護老人ホームのベッドが空いているときはシヨートステイのベッドとして利用で